

普及活動情勢報告（令和3年5月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

収穫後のミョウガの洗浄水にも気をつけよう ～JA土佐くろしおミョウガ部会目慣らし会～



水質調査結果について情報提供する普及指導員（右）

4月13～22日にかけて、JA土佐くろしおの3集出荷場でミョウガの目慣らし会が開催され、生産者のべ199人が参加しました。

当課は昨年管内で実施した収穫後のミョウガ洗浄に係る水質調査結果等について、情報提供を行いました。

1mlあたりの一般細菌数が100以上かつ水温25℃以上の条件で花蕾の腐敗リスクが大幅に上昇することや、ミョウガを洗った後の落水や汚れのある洗浄機シャワーには、一般細菌数が多く含まれている結果を報告しました。生産者からは「うちの水は綺麗か気になる」といった声が聞かれました。

当課はJAと協力して花蕾の腐敗が発生しやすい夏期に水質調査を実施するとともに、水質の改善による腐敗対策の指導を行っています。

冬春作での有望な収入源 ～加工用ワサビの収穫が始まりました～



目慣し会で出荷規格を確認

4月17日から、津野山地域4戸の加工用ワサビ生産農家において、収穫作業が始まりました。今年度は、令和2年11月の定植後からJAと当課が協力し、巡回指導の際に津野山版栽培暦を用い、栽培管理を周知・徹底しました。その結果、暦活用前より生育・品質ともに大きく改善しており、収量向上が期待されています。

農家からは、「今年度は株が大きく、規格外になる変色もほとんど無い」という声が聞かれました。

当課は、今年度の結果を考察し、夏秋作との組み合わせによる収益向上と、生産者確保による産地の維持・拡大を支援します。

HACCPに沿った衛生管理が制度化されます ～食品衛生法の改正内容に関する研修会～



説明を聞く直販所関係者等

4月26日、JA土佐くろしおで食品衛生法の研修会を開催し、直販所関係者など17人が参加しました。

須崎福祉保健所から講師を招き、本年6月1日から施行される内容について、食品等事業者は一部の業種を除き、営業許可や届出、HACCPに沿った衛生管理を求められるようになること等を説明しました。

出席者からは「直販所にある商品ではどこまでが届出の対象になるのかわかりにくい」といった質問がありました。

当課では今後も関係機関と協力して、届出対象範囲の把握に努めるとともに、対象となる事業者に対しては、適正な衛生管理等が実施できるよう支援していきます。

津野山地域の担い手を確保するために、今できることを。 ～就農相談の実施・体制強化～



就農相談の様子

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、地方への就農に関心のある方からの相談件数が増えています。

現在、2名の方が津野山地域での就農を希望しており、関係機関の担当者とともに、定期的な打合せを行っています。

当課は、就農希望者の意向を聞き取りしたり、関係機関からの各種支援策紹介のサポートをするなど全体的なコーディネートを行っています。

今後、関係機関と連携・協力し、就農相談を受ける機会を増やしていくなど、新たな担い手を確保していけるよう支援します。

「よさ恋バナナ」を使ったレシピの開発を ～高知情報ビジネス&フード専門学校での講演～



講演の様子

5月10日、バナナの加工品のレシピ開発等を目的として、専門学校で「よさ恋バナナ」に関する講演が行われ、調理系学科の学生等約40人が参加しました。

当課は、6次産業化支援チームで「よさ恋バナナ」の販路拡大支援を行っており、講演に向け生産者と内容の打合せや資料作成支援を行いました。講演では、生産者が講師となり「よさ恋バナナ」の生育や特徴などについて説明しました。

学生からは、「栽培のこだわりは?」「一番おいしかったバナナの食べ方は?」などの質問があり、「よさ恋バナナ」の理解向上と今後のレシピ開発への意欲を高めることができました。

当課では、新たなレシピ開発等により販路開拓に繋がるよう支援していきます。

津野山地域の将来を見据え関係機関が連携 ～津野山地域営農連絡協議会を開催～



熱心に協議する参加者

5月19日、J A高知県高西地区津野山営農経済センターと梶原町、津野町、当課等の関係機関が集まり、津野山営農経済センター輝で令和3年度津野山地域営農連絡協議会を開催しました。

当課は具体的な活動や目標設定の支援を行いました。

会では、PT会の行動計画等の説明が行われ、構成員からは「GAP点検活動の際に町にも協力してもらってはどうか」「就農相談会開催は地域住民の帰省時期に合わせて実施しては」など活発に意見が出されました。

当課は津野山地域の農業の維持・発展に向け、関係機関との連携を密にしながら活動していきます。